

改正

昭和38年4月1日  
昭和63年4月1日  
平成2年4月1日  
平成3年4月1日  
平成4年4月1日  
平成5年4月1日  
平成6年4月1日  
平成7年4月1日  
平成8年4月1日  
平成12年4月1日  
平成13年4月1日  
平成14年4月1日  
平成15年10月14日  
平成17年4月1日  
平成17年4月1日  
平成17年4月1日  
平成18年4月1日  
平成19年4月1日  
平成20年4月1日  
平成21年4月1日  
平成22年4月1日  
平成23年4月1日  
平成24年4月1日  
平成25年4月1日  
平成26年4月1日  
平成27年4月1日  
平成29年4月1日  
平成30年4月1日  
平成31年4月1日  
令和2年4月1日  
令和3年4月1日  
令和3年10月1日  
令和4年4月1日

近畿大学工業高等専門学校学則

本校には、本科と専攻科がある。専攻科に関わる学則は12章にまとめる。

第1章 総則

(目的)

第1条 本校は、教育基本法の本質にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

2 本校は建学の精神に沿った教育理念を実践するため、近畿大学工業高等専門学校教育方針を別記(1)に定め、人材の養成に関する目的及びその他教育・研究上の具体的な目的を別記(2)に定めるものとする。

(学科の構成及び定員)

第2条 本校には次の学科をおき、その学級数、入学定員は次のとおりとする。

総合システム工学科 4学級 160名

2 総合システム工学科には、機械システムコース、電気電子コース、制御情報コース、都市環境コー

スの計4コースを置き、学生は3年次より、いずれか1コースに在籍する。

(修業年限)

第3条 本校の修業年限は5年とする。

2 在学年数は5年以上9年以下とする。

第2章 学年・学期及び休業日

(学年・学期)

第4条 本校の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年はこれを2期に分け、4月1日から9月30日までを前期とし、10月1日から翌年3月31日までを後期とする。

3 校長は、前項の後期開始日を変更することができる。なお、後期開始日を変更した場合は、その前日をもって前期の終了とする。

(休業日)

第5条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日

(2) 創立記念日 11月5日

(3) 春期休業 3月21日から4月10日まで

(4) 夏期休業 7月11日から8月31日まで

(5) 冬期休業 12月21日から翌年1月10日まで

2 校長は必要に応じ前項の休業日を変更し、又は臨時休業日を定めることができる。

第3章 教育課程等

(授業期間)

第6条 1年間の授業を行う期間は、定期試験などの期間を含め、35週以上にわたることを原則とする。

(授業科目の区別及び教育課程の編成)

第7条 授業科目は、一般科目、工学基礎科目及び第3学年からコースあるいは系ごとに配当される専門科目に分けて、これらを5年間に配当して教授する。

2 授業科目及びその履修単位数は、別表1及び別表2のとおりとする。

3 各授業科目の単位数は、30単位時間(1単位時間は、標準50分とする。第7項において同じ。)の履修を1単位として計算するものとする。

4 前項の規定にかかわらず、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算することができる。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。

5 前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は60単位を超えないものとする。

6 前3項の規定にかかわらず、卒業研究などの授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修などを考慮して、単位数を定めることができる。

7 第1項に定める授業科目のほか、特別活動を90単位時間以上実施する。

(授業の方法)

第7条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はその併用により行うものとする。

2 校長は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。なお、これにより修得する単位数は60単位を超えないものとする。

3 校長は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で履修させることができる。

(大学及び他の高等専門学校等の教育施設における学修等)

第7条の3 校長が教育上有益と認めるときは、大学又は他の高等専門学校における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、60単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

#### 第4章 入学・編入学・転入学・外国留学・休学・退学・除籍・復学・再入学・復籍

(入学の時期)

第8条 入学の時期は、毎学年の始めとする。

(入学資格)

第8条の2 本校に入学できる者は、次の各号の一に該当する資格を有する者で、本校が行う入学試験  
その他所定の手続を終えたものとする。

- (1) 中学校を卒業した者
- (2) 文部科学大臣の指定した者
- (3) 外国において、学校教育における9年の課程を修了した者
- (4) その他本校において中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(編入学及び転入学の許可)

第9条 本校に編入学を志願する者は、欠員のある場合に限り所定の手続を経て、校長が編入学を許可  
することができる。

2 本校に転入学を志願する者については、欠員のある場合に限り所定の手続を経て、校長が転入学を  
許可することができる。

3 編入学者及び転入学者の修業年限は、別に定める。

(外国留学)

第9条の2 校長は、本高等専門学校との協定又は認定する外国の高等学校又は大学に留学を希望する学  
生を、審議のうえ、留学させることができる。

2 前項の留学期間は、学年の途中においても、校長の承認を得て第3条に規定する修業年限に算入す  
ることができる。

3 校長は、第1項の規定により留学することを許可された学生について、外国の高等学校又は大学に  
おける履修を本校における履修とみなし、60単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

4 前項で認定することができる単位数は、第7条の3により本校において修得したものとみなす単位  
数と合わせて60単位を超えないものとする。

5 留学に関する規定は、別に定める。

(入学手続)

第10条 本校に入学を許可された者は、指定された期日までに保証人連署の誓約書及び校長が定めた  
書類を提出しなければならない。

2 保証人は、第1保証人及び第2保証人とし、第1保証人は保護者、第2保証人は独立の生計を営む  
成年者でなければならない。

3 保証人は、保証する学生の在学中、その一身に関する事項について連帯して責任を負わなければな  
らない。

(休学)

第11条 病気その他やむを得ない理由で3カ月以上継続して修学することができないときは、保証人  
連署のうえ休学を願い出て、校長の許可を受けて休学することができる。

2 病気を事由とする休学願には、医師の診断書を添えなければならない。

3 休学の期間は、休学を許可された日から当該年度末までとする。ただし、特別な事情がある場合に  
は、引続き休学を許可することができる。

4 休学できる期間は、連続して2年以内、通算して修業年限以内とする。

5 休学の期間は在学年数に算入しない。

6 休学中は、別に定める在籍料を納入しなければならない。

(復学)

第11条の2 休学者が休学の理由がやんだときは、保証人連署のうえ、復学を願い出て、その許可を  
得て復学することができる。

(退学)

第12条 退学しようとする者は、その理由を記し、保証人連署のうえ願い出なければならない。ただ  
し、やむを得ない事情のある場合はこの限りでない。

(削除)

(除籍)

第 12 条の 2 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍とする。

- (1) 第 3 条及び第 9 条第 3 項に定める在学年数を超えた者
- (2) 第 11 条第 4 項に定める休学を許可された期間を超えてなお復学又は退学しない者
- (3) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者
- (4) 本校において修学する意思がないと認められる者
- (5) 1 年間以上にわたり行方不明の者

(再入学)

第 12 条の 3 正当な理由で退学した者が再入学を願い出たときは、学年の始めに限り審査のうえ、許可することがある。

(復籍)

第 12 条の 4 学費未納による除籍者については、別に定めるところにより審査のうえ、復籍を許可することがある。

## 第 5 章 試験・進級及び卒業

(試験)

第 13 条 学業成績は試験によってこれを定める。

- 2 試験は、定期試験の他、平常の授業中において適宜これを行う。
- 3 科目によっては、その他の方法による考査を行うことがある。
- 4 病気その他やむをえない事情により受験できなかった科目及び不合格になった科目については、追・再試験を行うことがある。

(留級)

第 14 条 出席状況及び成績が甚だしく不良の者は、進級を許さず原学年に留めおきとすることがある。

- 2 原学年に留め置きとなった者は、当該学年に係る全授業科目及び特別活動を、再履修するものとする。

(卒業の認定)

第 15 条 本校に 5 年以上在学し、卒業に必要な所定の課程を修了した者は、卒業資格あるものと認め、卒業証書を授与する。卒業要件の単位数は 5 年間で一般科目 83 単位、専門科目 86 単位以上の合計 169 単位以上を修得しなければならない。

- 2 本校を卒業した者は、準学士(工学)と称することができる。

## 第 6 章 賞罰

(表彰)

第 16 条 学力優秀・品行方正な者その他格別の功績があった者は、これを表彰する。

(懲戒)

第 17 条 学則、学生規程その他諸規則に違反し、本校の秩序を乱し、又は性行不良その他学生の本分にもとる行為のあった者に対しては、懲戒として譴責、停学又は退学の処分を行う。

(削除)

2 次の各号のいずれかに該当する者には退学を命ずる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業を怠り成業の見込みがないと認められる者
- (3) 本校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

(削除)

第 18 条 前 2 条の表彰及び懲戒は、必要に応じ学生委員会又は学生懲戒委員会で審議するものとする。

## 第 7 章 学費

(学費)

第 19 条 入学金、授業料等の額は、別表 3 のとおりとする。

(学費の納付)

第 20 条 授業料その他の所定の学費は、前期分は 5 月末日までに、後期分は 10 月末日までに納めなければならない。

- 2 前項の学費に対し、休学許可を受けた者は、別に定める在籍料を納めなければならない。ただし、学生健保共済会費、学生会費、保教会費は休学中でも全額納めなければならない。

- 3 既に納めた授業料その他学費は、事情の如何にかかわらず、これを返還しない。
- 4 授業料その他の学費の納付を怠った者は除籍する。
- 5 学費については、この学則に定めるほか、別に定める学費納入要項による。

## 第8章 科目等履修生・委託生及び外国人留学生

(科目等履修生・委託生及び外国人留学生)

- 第21条 本校は、科目等履修生・委託生及び外国人留学生の入学を許可することがある。
- 2 本校以外の者で科目等履修を希望する者があるときには、選考のうえ、科目等履修生としてこれを許可する。
  - 3 科目等履修生が履修した授業科目について、試験を受け合格したときは、所定の単位を与える。
  - 4 公共団体その他の機関から本校の特定授業科目について修学を委託されたときは、選考のうえ、委託生としてこれを許可する。

- 5 本校に留学を志願する外国人があるときは、特別の選考により、外国人留学生として入学を許可することがある。外国人留学生に関し、必要な事項は別に定める。
- 6 科目等履修生・委託生及び外国人留学生は、正科生と同じく一般の規則を遵守しなければならない。
- 7 科目等履修生及び委託生には、第15条は適用しない。

## 第9章 給付奨学生

(給付奨学生)

- 第22条 学力優秀かつ品行方正で学生の模範と認められた学生又は課外活動において優秀なる成績を収めた学生を選んで給付奨学生とすることがある。
- 2 給付奨学生に関しては別にこれを定める。

## 第10章 教職員組織

(教職員)

- 第23条 本校には、校長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他の職員を置く。
- 2 前項のほか、教務主事及び学生主事をおく。ただし、前項職務との重任を妨げない。
  - 3 教職員に関する規程は別にこれを定める。

## 第11章 学生寮

(学生寮)

- 第24条 本校の学生のために学生寮を設ける。
- 2 学生寮に関しては、別にこれを定める。

## 第12章 専攻科

(設置)

- 第25条 本校に、専攻科を置く。

(目的)

- 第26条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。
- 2 専攻科は建学の精神に沿った教育理念を実践するため、専攻ごとに人材の育成に関する目的及び教育・研究上の具体的な目的を別記のとおり定めるものとする。

(専攻及び入学定員)

- 第27条 入学定員は、次のとおりとする。

専攻科 入学定員

生産システム工学専攻 18名

(修業年限及び在学期間)

- 第28条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。

(入学資格)

- 第29条 専攻科に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第132条の規定により大学に編入学することができるもの
- (4) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者

(5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者

(6) その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者  
(入学者の選抜)

第30条 校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選抜を行う。

(教育課程)

第31条 専攻科の授業科目及びその単位数は、一般科目及び専門基礎科目については、別表4、専門科目については別表5のとおりとする。

(休学期間)

第32条 休学できる期間は、連続して2年以内、通算して修業年限以内とする。

2 休学期間は、第28条に定める修業年限及び在学年数に算入しない。

(修了)

第33条 専攻科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得した者については、修了を認定する。

2 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

3 第1項に規定する単位の修得方法については、別に定める。

(準用規定)

第34条 専攻科学生については、第4条から第5条まで、第6条、第7条の2、第7条の4、第9条の2、第10条、第11条、第12条、第12条の2、第13条、第16条から第20条まで及び第22条の規定を準用する。ただし、第7条の2中の「60単位」を「30単位」と、第7条の4中の「60単位」を「30単位」と、第9条の2中の「外国の高等学校又は大学」を「外国の大学」と、また、「60単位」を「30単位」と、第12条の2中の「第3条及び第9条第3項」を「第28条」と、それぞれ読み替える。

(科目等履修生)

第35条 第27条に規定した専攻科入学生に加えて、科目等履修生を若干名置く。科目等履修生は、専攻科における開設科目のうち一または複数の科目を履修することができる。その学修成果に対して専攻科は修得単位を認定する。

(科目等履修生への制限)

第36条 専攻科における科目等履修生は、第4条に定める半年単位で在学できる。

2 入学に関しては、第29条、第30条の規定を準用する。

3 科目等履修生に対しては、第33条に定める修了証書は授与しない。

(その他)

第37条 本章に定めるもののほか、専攻科に関する必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

この学則は、昭和37年4月1日から施行する。

附 則 (昭和38年4月1日)

この学則の改正は、昭和38年4月1日から施行する。

附 則 (昭和63年4月1日)

この学則の改正は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則 (平成2年4月1日)

この学則の改正は、平成2年4月1日から施行する。

附 則 (平成3年4月1日)

この学則の改正は、平成3年4月1日から施行する。

附 則 (平成4年4月1日)

この学則の改正は、平成4年4月1日から施行する。

附 則 (平成5年4月1日)

この学則の改正は、平成5年4月1日から施行する。

附 則 (平成6年4月1日)

この学則の改正は、平成6年4月1日から施行する。

附 則 (平成7年4月1日)

この学則の改正は、平成7年4月1日から施行する。

附 則 (平成8年4月1日)

この学則の改正は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成12年4月1日）

- 1 この学則の改正は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 機械工学科の機械システム工学科への名称変更、電気工学科の電気情報工学科への名称変更及び土木工学科の建設システム工学科への名称変更に伴う第2条及び第7条第2項（別表第1及び2）の改正は、平成12年度第1学年入学生から適用する。

（経過措置）

- 3 機械工学科、電気工学科及び土木工学科は、改正後の第2条及び第7条第2項（別表1及び2）の規定にかかわらず、当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則（平成13年4月1日）

この学則の改正は、平成13年4月1日から施行する。

ただし、第7条第2項別表1の改正は、在校生も含めて適用する。

附 則（平成14年4月1日）

この学則の改正は、平成14年4月1日から施行する。

ただし、第7条第2項別表2（建設システム工学科）の改正は、平成10年、11年度の入学生に関しては別表2—1を、平成12年度13年度の入学生に関しては別表2—2を、平成14年度の入学生に関しては別表2—3を適用する。

附 則（平成15年10月14日）

- 1 休学期間の増加と学費未納者の復学規定の追加
- 2 この学則の改正は、平成15年10月14日から施行する。
- 3 電気情報工学科収容定員数の増加、および選択科目の追加
- 4 この学則の改正は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年4月1日）

- 1 総合システム工学科設置に伴うこの学則の改正は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 機械システム工学科、電気情報工学科及び建設システム工学科の、総合システム工学科1学科制移行に伴う第2条及び第7条第2項（別表第1及び2）の改正は、平成17年度第1学年入学生から適用する。

（経過措置）

- 3 機械システム工学科、電気情報工学科及び建設システム工学科は、改正後の第2条及び第7条第2項（別表第1及び2）の規定にかかわらず、当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 4 第10条の2は平成15年度及び平成16年度に入学した学生に対し経過措置として適用される。

附 則（平成17年4月1日）

専攻科の設置に伴う学則の改正は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成17年4月1日）

- 1 機械システム工学科、電気情報工学科及び建設システム工学科の授業科目等の変更に伴うこの学則の改正は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 機械システム工学科、電気情報工学科及び建設システム工学科の授業科目及びその履修単位数は、第7条第2項（別表1及び2）の規定にかかわらず、別表5及び6の通りとする。

（経過措置）

- 3 平成13年度に入学した電気情報工学科の学生に対しては、本授業科目等の変更に伴う学則変更は、当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、適用されないものとする。

附 則（平成18年4月1日）

- 1 機械システム工学科、電気情報工学科及び建設システム工学科の授業科目等の変更に伴うこの学則の改正は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 機械システム工学科、電気情報工学科及び建設システム工学科の授業科目及びその履修単位数は、第7条第2項（別表1及び2）の規定にかかわらず、別表5及び6の通りとする。

（経過措置）

- 3 平成14年度に入学した電気情報工学科の学生に対しては、本授業科目等の変更に伴う学則変更は、当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、適用されないものとする。

附 則（平成19年4月1日）

1 総合システム工学科、機械システム工学科の授業科目等の変更に伴うこの学則の改正は、平成19年4月1日から施行する。

2 機械システム工学科、電気情報工学科及び建設システム工学科の授業科目及びその履修単位数は、第7条第2項（別表1及び2）の規定にかかわらず、別表5及び6の通りとする。

（経過措置）

3 平成15年度に入学した機械システム工学科の学生に対しては、本授業科目等の変更に伴う学則変更は、当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、適用されないものとする。

附 則（平成20年4月1日）

この学則の改正は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成21年4月1日）

1 この学則の改正は、平成21年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成20年度に入学した専攻科の学生に対しては、本授業科目等の変更に伴う学則変更は、当該科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、適用されないものとする。

附 則（平成22年4月1日）

この学則の改正は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成23年4月1日）

1 この学則の改正は、平成23年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成21年度に入学した総合システム工学科の学生に対しては、本授業科目等の変更に伴う学則変更は、当該科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、適用されないものとする。

附 則（平成24年4月1日）

1 この学則の改正は、平成24年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成20年度に入学した総合システム工学科の学生に対しては、本授業科目等の変更に伴う学則変更は、当該科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、適用されないものとする。

附 則（平成25年4月1日）

この学則の改正は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成26年4月1日）

1 この学則の改正は、平成26年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成23年以前に入学した総合システム工学科の学生に対しては、情報コミュニケーションコースの授業科目の変更に伴う学則変更は、当該科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、適用されないものとする。

3 平成25年度に入学した専攻科の学生に対しては、専攻科の授業科目の変更に伴う学則変更は、当該科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、適用されないものとする。

附 則（平成27年4月1日）

1 この学則の改正は、平成27年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成26年度以前に入学した総合システム工学科の学生に対しては、本授業科目の変更に伴う学則変更は、当該科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、適用されないものとする。

附 則（平成29年4月1日）

この学則の改正は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年4月1日）

この学則の改正は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月1日）

この学則の改正は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和2年4月1日）

1 この学則の改正は、令和2年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成31年度以前に入学した学生に対しては、教育課程の変更及び受験料、入学金、授業料その他の学費の変更は、適用されないものとする。

附 則 (令和3年4月1日)

この学則の改正は、令和3年4月1日から施行する。

附 則 (令和3年10月1日)

この学則の改正は、令和3年10月1日から施行する。

附 則 (令和4年4月1日)

この学則の改正は、令和4年4月1日から施行する。

別表1 一般科目に関する授業科目等 (総合システム工学科)

科目種類	授業科目名	単位数		学年別配当					備考	
		必修	選定	選択	1	2	3	4		5
	国語1 a	1.5			1.5					履修方法 ・一般科目は、各学年に 配当されている必修科 目のすべておよび選択 科目から選択して履修 する。 ・特別活動90単位時間履 修
	国語1 b	1.5			1.5					
	国語2 a	1.5				1.5				
	国語2 b	1.5				1.5				
	国語3 a	1					1			
	国語3 b	1					1			
	国語4 a	1						1		
	国語4 b	1						1		
	英語1 a	3			3					
	英語1 b	3			3					
	英語2 a	2.5				2.5				
	英語2 b	2.5				2.5				
	英語3 a	2.5					2.5			
	英語3 b	2.5					2.5			
	英語4 a	1.5						1.5		
	英語4 b	1.5						1.5		
	微積分学Ⅰ a	2				2				
	微積分学Ⅰ b	2				2				
	微積分学Ⅱ a	2.5					2.5			
	微積分学Ⅱ b	2.5					2.5			
	線形代数学 a	1.5				1.5				
	線形代数学 b	1.5				1.5				
	基礎数学 a	4			4					
	基礎数学 b	4			4					
	物理2 a	1.5				1.5				
	物理2 b	1.5				1.5				
	物理3 a	1.5					1.5			
	物理3 b	1.5					1.5			
	化学1 a	1.5			1.5					

一般科目

化学 1 b	1.5			1.5				
化学 2 a	1				1			
化学 2 b	1				1			
経済学 a	1						1	
経済学 b	1						1	
倫理 a	1					1		
倫理 b	1					1		
政治経済 a	1				1			
政治経済 b	1				1			
日本史 a	1			1				
日本史 b	1			1				
世界史 a	1				1			
世界史 b	1				1			
地理 a	0.5			0.5				
地理 b	0.5			0.5				
保健体育 1 a	1.5			1.5				
保健体育 1 b	1.5			1.5				
保健体育 2 a	1.5				1.5			
保健体育 2 b	1.5				1.5			
保健体育 3 a	1					1		
保健体育 3 b	1					1		
保健体育 4 a	0.5						0.5	
保健体育 4 b	0.5						0.5	
保健体育 5 a	0.5							0.5
保健体育 5 b	0.5							0.5
芸術	1			1				
防災リテラシー	1			1				
解析学 4 a			1				1	1
解析学 4 b			1				1	1
解析学 5 a			1					1
解析学 5 b			1					1
法学 a			1					1
法学 b			1					1
英語特講 a			1					1
英語特講 b			1					1
TOEIC プラス a			1.5					1.5
TOEIC プラス b			1.5					1.5
外国文献購読 a			1					1
外国文献購読 b			1					1
中国語初級 a			0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
中国語初級 b			0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
中国語中級 a			0.5		0.5	0.5	0.5	0.5

中国語中級 b			0.5		0.5	0.5	0.5	0.5
中国語上級 a			0.5			0.5	0.5	0.5
中国語上級 b			0.5			0.5	0.5	0.5
韓国語 I a			1			1	1	1
韓国語 I b			1			1	1	1
韓国語 II a			1				1	1
韓国語 II b			1				1	1
英語演習 1 a			0.5	0.5				
英語演習 1 b			0.5	0.5				
英語演習 2 a			0.5		0.5			
英語演習 2 b			0.5		0.5			
英語演習 3 a			0.5			0.5		
英語演習 3 b			0.5			0.5		
英語演習 4 a			0.5				0.5	
英語演習 4 b			0.5				0.5	
基礎数学演習 1 a			0.5	0.5				
基礎数学演習 1 b			0.5	0.5				
線形代数学演習 2 a			0.5		0.5			
線形代数学演習 2 b			0.5		0.5			
微積分学演習 3 a			0.5			0.5		
微積分学演習 3 b			0.5			0.5		
基礎物理 a			1	1				
基礎物理 b			1	1				
物理演習 3 a			0.5			0.5		
物理演習 3 b			0.5			0.5		
応用物理演習 4 a			0.5				0.5	
応用物理演習 4 b			0.5				0.5	
化学 3 a			0.5			0.5		
化学 3 b			0.5			0.5		
生物 1 a			0.5	0.5				
生物 1 b			0.5	0.5				
生物 2 a			1		1			
生物 2 b			1		1			
課題研究			1				1	
創造工学演習			1				1	

別表2 専門科目に関する授業科目等（総合システム工学科）

科目種類	授業科目名	学 修 単 位	単位数			学年別配当					備考	
			必修	選定	選択	1	2	3	4	5		
工学基礎 科目	工学概論Ⅰ a	1					1					
	工学概論Ⅰ b	1					1					
	情報処理Ⅱ a	1					1					
	情報処理Ⅱ b	1					1					
	図学 a	1					1					
	図学 b	1					1					
	工学実験・実習 2	4					4					
	情報処理Ⅰ a	1				1						
	情報処理Ⅰ b	1				1						
	工学実験・実習 1	4				4						
	機械シス テムコー ス専門科 目	制御工学 a	1									
制御工学 b		1										1
計測工学 a		1										1
計測工学 b		1										1
材料力学Ⅱ a		0.5										0.5
材料力学Ⅱ b		0.5										0.5
工業熱力学Ⅱ a		1										1
工業熱力学Ⅱ b		1										1
流体力学Ⅱ a		1										1
流体力学Ⅱ b		1										1
機械力学 a		1										1
機械力学 b		1										1
加工プロセス 学Ⅱ a		1										1
加工プロセス 学Ⅱ b		1										1
物質移動工学 a		1										1
物質移動工学 b		1										1
機械システム 設計製図Ⅲ		3										3
工学実験 5		3										3
卒業研究		8										8
創造製作実習					2							2
新素材 a				0.5							0.5	

新素材 b				0.5					0.5
コンピュータ概論 II a				1					1
コンピュータ概論 II b				1					1
材料力学演習				1					1
流体工学演習				1					1
制御工学演習				1					1
技術と倫理 a				1					1
技術と倫理 b				1					1
応用数学 a		1						1	
応用数学 b		1						1	
工業数学 a		1						1	
工業数学 b		1						1	
応用物理 a		1.5						1.5	
応用物理 b		1.5						1.5	
メカトロニクス a		1						1	
メカトロニクス b		1						1	
材料力学 I a		1						1	
材料力学 I b		1						1	
力学演習 a		0.5						0.5	
力学演習 b		0.5						0.5	
工業熱力学 I a		1						1	
工業熱力学 I b		1						1	
流体力学 I a		1						1	
流体力学 I b		1						1	
加工プロセス学 I a		1						1	
加工プロセス学 I b		1						1	
電気工学概論 a		1						1	
電気工学概論 b		1						1	
機械システム設計製図 II		2						2	
工学実験 4		3						3	
工作実習 4				2				2	
CAD II a				1				1	
CAD II b				1				1	
プラスチック成形加工 a				1				1	

履修方法

・専門科目は、各学年に担当されている工学基礎科目とコースごとの必修科目の全て及び選択科目の中から選択した科目を履修する。

卒業要件

1. 169単位以上履修（ただし一般科目：83単位以上、専門科目：86単位以上修得）
2. 工学実験、卒業研究は修得。
3. 特別活動90単位時間履修。

	プラスチック成形加工 b			1			1	
	インターンシップ			1 ~ 4			1 ~ 2	1 ~ 2
	機構学 a	0.5				0.5		
	機構学 b	0.5				0.5		
	金属材料 a	1				1		
	金属材料 b	1				1		
	コンピュータ概論 I a	1				1		
	コンピュータ概論 I b	1				1		
	CAD I a	1				1		
	CAD I b	1				1		
	工業力学 a	1				1		
	工業力学 b	1				1		
	機械システム設計製図 I	2				2		
	工学実験 3	2				2		
	工作実習 3	3				3		
電気電子コース専門科目	制御工学 a	1						1
	制御工学 b	1						1
	電気電子設計製図 a	1						1
	電気電子設計製図 b	1						1
	送配電工学 a	0.5						0.5
	送配電工学 b	0.5						0.5
	パワーエレクトロニクス a	1						1
	パワーエレクトロニクス b	1						1
	高電圧工学	1						1
	発電工学	1						1
	電気法規・施設管理	1						1
	通信工学 II a	1						1
	通信工学 II b	1						1
	電子回路 II a	1						1
	電子回路 II b	1						1
	卒業研究	6						6
	工学実験 5	6						6
	半導体工学 a	1						1
	半導体工学 b	1						1
	数値計算法 a			1				1
数値計算法 b			1				1	

電気回路Ⅲ a			1				1	
電気回路Ⅲ b			1				1	
電気情報工学 特論 a			1				1	
電気情報工学 特論 b			1				1	
技術と倫理 a			1				1	
技術と倫理 b			1				1	
応用数学 a	1						1	
応用数学 b	1						1	
応用物理 a	1						1	
応用物理 b	1						1	
データ処理 a	1						1	
データ処理 b	1						1	
計測工学 a	1						1	
計測工学 b	1						1	
電気磁気学Ⅱ a	1						1	
電気磁気学Ⅱ b	1						1	
電気回路Ⅱ a	1						1	
電気回路Ⅱ b	1						1	
電気機器 a	1						1	
電気機器 b	1						1	
通信工学Ⅰ a	1						1	
通信工学Ⅰ b	1						1	
電子回路Ⅰ a	1						1	
電子回路Ⅰ b	1						1	
工学実験 4	6						6	
電子工学 a	1						1	
電子工学 b	1						1	
工業数学 a			1				1	
工業数学 b			1				1	
回路演習			1				1	
電気磁気学演習			1				1	
情報演習			1				1	
インターンシ ップ			1～ 4				1～ 2	1～ 2
コンピュータ 概論 a	1					1		
コンピュータ 概論 b	1					1		
CAD a	1					1		
CAD b	1					1		

履修方法  
・専門科目は、各学年に配当されている工学基礎科目とコースごとの必修科目の全て及び選択科目の中から選択した科目を履修する。

卒業要件  
1. 169単位以上履修  
(ただし一般科目：83単位以上、専門科目：86単位以上修得)  
2. 工学実験、卒業研究は修得。  
3. 特別活動90単位時間履修。

	機械工学概論 a		1					1		
	機械工学概論 b		1					1		
	電気磁気学 I a		1					1		
	電気磁気学 I b		1					1		
	電気電子材料 a		1					1		
	電気電子材料 b		1					1		
	電気回路 I a		1					1		
	電気回路 I b		1					1		
	工学実験 3		4					4		
制御情報 コース専 門科目	ソフトウェア 工学		1					1		履修方法 ・ 専門科目は、各学 年に担当されてい る工学基礎科目と コースごとの必修 科目の全て及び選 択科目の中から選 択した科目を履修 する。  卒業要件 1. 169単位以上履修 (ただし一般科目： 83単位以上、専門科 目：86単位以上修得) 2. 情報実習、サイバ ーセキュリティ実 習、CGゲームデザイ ン実習、AIロボティ クス実習、卒業研究 は修得。 3. 特別活動90単位時 間履修。  記号○は、1単位の授 業科目を45時間 (講義15時間、自学 自習30時間) の学修を必要とする 内容をもって構成 する。
	数理論理学		1					1		
	ネットワーク セキュリティ a	○	1						1	
	ネットワーク セキュリティ b	○	1						1	
	情報メディア 論		1						1	
	オペレーティ ングシステム		1					1		
	卒業研究		6						6	
	制御工学		1					1		
	ロボット工学 a		1						1	
ロボット工学 b		1						1		

電子回路		1					1		
データベース		1						1	
データ構造と アルゴリズム Ⅱ a	○	1							1
データ構造と アルゴリズム Ⅱ b	○	1							1
サイバーセキュ リティ実習 Ⅲ		2							2
ソフトウェア セキュリティ		1							1
ハードウェア セキュリティ		1							1
CGゲームデ ザイン実習Ⅲ		2							2
WEBデザイ ン		1							1
VRデザイン a		1							1
VRデザイン b		1							1
AIロボティ クス実習Ⅲ		2							2
画像・音声処理		1							1
人工知能		1							1
技術と倫理 a				1					1
技術と倫理 b				1					1
オブジェクト 指向 a	○			1					1
オブジェクト 指向 b	○			1					1
確率統計Ⅱ a	○			1					1
確率統計Ⅱ b	○			1					1
CAE解析 a	○			1					1
CAE解析 b	○			1					1
応用数学 a		1						1	
応用数学 b		1						1	
数値計算法		1						1	
通信理論・符号 理論		1						1	
データ構造と アルゴリズム Ⅰ a	○	1						1	
データ構造と アルゴリズム	○	1						1	

I b									
応用物理 a		1						1	
応用物理 b		1						1	
情報実習 II		2						2	
情報実習 III		2							2
メカトロニクス a		1						1	
メカトロニクス b		1						1	
情報化と経営		1						1	
サイバーセキュリティ実習 II		2						2	
CGゲームデザイン実習 II		2						2	
ゲーム理論 a	○	1						1	
ゲーム理論 b	○	1						1	
AIロボティクス実習 II		2						2	
確率統計 I a	○			1				1	
確率統計 I b	○			1				1	
回路演習				1				1	
電気磁気学演習				1				1	
情報演習				1				1	
インターシッ ップ				1 ~ 4				1 ~ 2	1 ~ 2
電気回路		1						1	
論理回路		1						1	
情報実習 I		2						2	
コンピュータ 基礎	○	1						1	
サイバーセキュ リティ実習 I		2						2	
情報セキュリ ティと法制度		1						1	
CGゲームデ ザイン実習 I		2						2	
3D-CA D・CG	○	1						1	
AIロボティ クス実習 I		2						2	
プログラミング 実習 a		1						1	
プログラミング 実習 b		1						1	

都市環境 コース専 門科目	構造力学Ⅰ a	1				1		
	構造力学Ⅰ b	1				1		
	構造力学Ⅱ a	1					1	
	構造力学Ⅱ b	1					1	
	構造力学Ⅲ a	1						1
	構造力学Ⅲ b	1						1
	景観環境デザ イン a	1						1
	景観環境デザ イン b	1						1
	環境工学 a	0.5						0.5
	環境工学 b	0.5						0.5
	測量実習Ⅰ	3				3		
	測量実習Ⅱ	4						4
	卒業研究	6						6
	耐震工学 a	1						1
	耐震工学 b	1						1
	コンクリート 構造学 a			1				1
	コンクリート 構造学 b			1				1
	技術と倫理 a			1				1
	技術と倫理 b			1				1
	応用数学 a	1					1	
	応用数学 b	1					1	
	応用物理 a	1.5					1.5	
	応用物理 b	1.5					1.5	
	コンクリート 構造学 a	1					1	
	コンクリート 構造学 b	1					1	
	測量学Ⅰ	2				2		
	測量学Ⅱ	2					2	
	地盤工学Ⅰ	2				2		
	都市工学実験	3					3	
	工業数学 a			1			1	
	工業数学 b			1			1	
	インターンシ ップ			1～ 4			1～ 2	1～ 2
	建設材料学 a	1				1		
	建設材料学 b	1				1		
	建設・建築製図	3				3		
	交通工学 a		1					1
交通工学 b		1					1	
建設設計製図		3				3		

履修方法  
・専門科目は、各学  
年に担当されてい



建築構造設計 a				1					1
建築構造設計 b				1					1
コンピューター・デザイン演習 (CAD)			1					1	
建築計画・デザイン a			1					1	
建築計画・デザイン b			1					1	
建築計画・デザイン演習			2					2	
建築環境			1					1	
建築構造 a			1					1	
建築構造 b			1					1	
建築法規			1					1	
建築史 I			1				1		
建築史 II			1					1	
造形デザイン演習 I			1				1		
造形デザイン演習 II			1					1	

## 別表 3

## 受験料

本科	15,000円
編入学・専攻科	25,000円

## 入学金

本科	200,000円（編入学 200,000円）
専攻科	200,000円（内部進学 100,000円）

## 学費

本科	1～3年生	4・5年生
授業料	520,000円	1,084,000円

専攻科	全学年
授業料	1,084,000円

平成31年度以前に入学した学生は、以下の授業料、入学金及び学費を適用する。

## 受験料

本科	15,000円
編入学・専攻科	25,000円

## 入学金

本科	200,000円（編入学 200,000円）
専攻科	200,000円（内部進学 100,000円）

## 学費

本科	1～3年生	4・5年生
授業料	468,000円	984,000円

専攻科	全学年
授業料	984,000円

上記以外に、学生会費、保教会入会金・保教会費、学生健保共済会費及び校友会終身会費が必要。（ただし、校友会終身会費は既に全額を納めた者は不要。）

別表4 一般科目、関連科目に関する授業科目等（専攻科 生産システム工学専攻）

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
一般科目	日本語表現法	1 前	2		一般科目は必修10単位、関連科目は必修科目12単位以上履修する。インターンシップの単位数は、実習時間による。37.5時間の実習で1単位、75時間で2単位とする。
	総合英語	1 前	2		
	人間と環境	1 後	2		
	技術者倫理	2 前	2		
	国際社会の中の日本	2 後	2		
関連科目	応用数学特論	1 前	2		
	解析力学	1 前	2		
	離散数学	1 後	2		
	化学特論	1 後	2		
	統計力学	2 前	2		
	物理学特論	2 後	2		
	インターンシップ	1		1～2	

別表5 専門科目に関する授業科目等（専攻科 生産システム工学専攻）  
～令和3年度入学生

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考
			必修	選択必修	
共通専門科目	生産システム工学特別研究Ⅰ	1	6		} 1科目以上履修
	生産システム工学特別研究Ⅱ	2	6		
	知的情報処理	1前	2		
	計算力学	1前	2		
	生産環境工学	1後		2	
	材料物理	2後		2	
	知能システム	2前	2		
	信頼性工学	2前	2		
機械工学専門科目	機械工学実験	1後・2前	2		} 11科目の中から7科目以上履修
	機械工学演習	2	2		
	生産加工学	1前		2	
	応用流体力学	1前		2	
	伝熱概論	1前		2	
	構造信頼性理論	1後		2	
	振動工学	1後		2	
	エネルギー変換工学	1後		2	
	流体工学特論	1後		2	
	材料力学特論	2前		2	
	工業材料	2後		2	
	システム制御工学	2後		2	
	マトリクス構造解析	2後		2	
電気電子工学専門科目	電気電子工学実験	1後・2前	2		} 11科目の中から7科目以上履修
	電気電子工学演習	2	2		
	エネルギー変換論	1前		2	
	電子回路特論	1前		2	
	半導体デバイス工学	1前		2	
	電磁気学特論	1後		2	
	メディア情報処理	1後		2	
	技術英語講読	1後		2	
	絶縁設計工学	2前		2	
	電子物性特論	2前		2	
	半導体シミュレーション工学	2後		2	
	並列計算法	2後		2	
故障物理学	2後		2		
土木工学専門科目	土木工学実験	1後・2前	2		}
	土木工学演習	2	2		
	構造力学特論	1前		2	
	土質工学特論	1前		2	

	都市地域計画学特論	1 前		2	11科目の中から 7科目以上履修
	水理学特論	1 後		2	
	交通計画学特論	1 後		2	
	都市環境生態工学特論	2 前		2	
	都市交通計画学特論	2 前		2	
	水工学特論	2 前		2	
	建設材料学特論	2 後		2	
	環境地盤工学特論	2 後		2	
	農村地域計画学特論	2 後		2	

令和4年度入学生～

授業科目の名称		配当年次	単位数		備考
			必修	選択必修	
<b>共通専門科目</b>	生産システム工学特別研究Ⅰ	1	6		
	生産システム工学特別研究Ⅱ	2	6		
	知的情報処理	1 前	2		
	計算力学	1 前	2		
	生産環境工学	1 後		2	1科目以上履修
	材料物理	2 後		2	
	知能システム	2 前	2		
	信頼性工学	2 前	2		
<b>機械工学専門科目</b>	機械工学実験	1 後、2 前	2		
	機械工学演習	2	2		
	生産加工学	1 前		2	1 1科目の中から7科目以上履修
	応用流体力学	1 前		2	
	伝熱概論	1 前		2	
	構造信頼性理論	1 後		2	
	振動工学	1 後		2	
	エネルギー変換工学	1 後		2	
	流体工学特論	1 後		2	
	材料力学特論	2 前		2	
	工業材料	2 後		2	
	システム制御工学	2 後		2	
	マトリクス構造解析	2 後		2	
<b>電気電子工学専門科目</b>	電気電子工学実験	1 後、2 前	2		
	電気電子工学演習	2	2		
	エネルギー変換論	1 前		2	1 1科目の中から7科目以上履修

	電子回路特論	1 前		2	
	半導体デバイス工学	1 前		2	
	電磁気学特論	1 後		2	
	メディア情報処理	1 後		2	
	技術英語講読	1 後		2	
	絶縁設計工学	2 前		2	
	電子物性特論	2 前		2	
	半導体シミュレーション工学	2 後		2	
	並列計算法	2 後		2	
	故障物理学	2 後		2	
<b>情報工学 専門科目</b>	情報工学実験	1 後、2 前	2		
	情報工学演習	2	2		
	情報工学特論	1 前		2	1 1科目の中から 7科目以上履修
	計算機システム特論	1 前		2	
	電子回路特論 (注1)	1 前		2	
	信号処理工学特論	1 後		2	
	メディア情報処理 (注1)	1 後		2	
	通信工学特論	1 後		2	
	プログラミング言語特論	2 前		2	
	人工知能特論	2 前		2	
	計画数理特論	2 後		2	
	並列計算法 (注1)	2 後		2	
	システム制御工学 (注2)	2 後		2	
<b>土木工学 専門科目</b>	土木工学実験	1 後、2 前	2		
	土木工学演習	2	2		
	構造力学特論	1 前		2	1 1科目の中から 7科目以上履修
	土質工学特論	1 前		2	
	都市地域計画学特論	1 前		2	
	水理学特論	1 後		2	
	交通計画学特論	1 後		2	
	都市環境生態工学特論	2 前		2	
	都市交通計画学特論	2 前		2	
	水工学特論	2 前		2	
	建設材料学特論	2 後		2	
	環境地盤工学特論	2 後		2	
	農村地域計画学特論	2 後		2	

(注1)・・・電気電子工学と情報工学の共通専門科目

(注2)・・・機械工学と情報工学の共通専門科目

## 別記(1)

### 近畿大学工業高等専門学校教育方針

(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー、アセスメント・ポリシー)

本学は、「未来志向の実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念として掲げてきました。この「建学の精神」と「教育理念」は、知識基盤社会へ転換しようとする21世紀の日本において、いっそう必要とされる理念であると自負します。

本校が、工業高等専門学校の特色を生かしながら、共に手を携えて目指そうとしているのは、「実学教育」と「人格の陶冶」の融合です。真の「実学」とは、必ずしも直接的な有用性を志向するだけでなく、その事柄の意味を学び取ることを含みます。現実立脚しつつも、歴史的展望をもち、地に足をつけて、しなやかな批判精神やチャレンジ精神を發揮できる、創造性豊かな人格の陶冶を志向するものです。「自主独往の気概に満ち」、生涯にわたって自己の向上に励み、社会を支える高い志をもつことが「人に愛され、信頼され、尊敬される」ことにつながります。このような学生を社会に送り出すことが、これからの時代に、本校が目指す社会的使命であります。

#### ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）

【本科】本校は、近畿大学の「建学の精神」と「教育理念」に則り、「社会に貢献するための広い視野からものづくりを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者」の育成に努めます。所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、準学士の称号を授与します。

卒業までに身に付けるべき学力や資質・能力は以下のとおりです。

- 1 工学の基礎知識と情報処理技術の修得
  - (1) 数学、物理など工学の基礎知識を身に付ける。
  - (2) 実験データの取集や報告書の作成にコンピュータを活用した情報処理技術を身に付ける。
- 2 実践的問題解決とデザイン能力の修得
  - (1) 専門分野及び関連分野の基礎知識を修得し、専門分野の知識を問題解決に応用できる。
  - (2) ものづくりに必要な設計図面の作成や構想を具現化できるデザイン能力を身に付ける。
- 3 技術者に必要な価値観と倫理観の修得
  - (1) 自国や他国の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した環境デザインができる。
  - (2) 社会人としての健全な人格形成と倫理観を身に付ける。
- 4 幅広い教養と豊かな人間性の修得
  - (1) 人文科学、社会科学、自然科学の幅広い教養を身に付ける。
  - (2) 協働学習を通じて「人に愛され、信頼され、尊敬される」豊かな人間性を身に付け、自らを成長させ続ける自己教育力を培う。
- 5 コミュニケーション能力の修得
  - (1) 実験結果や報告書を分かりやすくまとめ、自分の考えを簡潔に伝えるプレゼンテーション能力を身に付ける。
  - (2) 簡単な会話や読み書きができる外国語の基礎能力を身に付ける。

【専攻科】本校は、近畿大学の「建学の精神」と「教育理念」に則り、「社会の技術発展に貢献するための広い視野からものづくりを考え、それぞれの専門分野の高度な知識と幅広い工学的素養をもって、考えたものを実現していく開発型技術者」の育成に努めます。修了時に身に付けるべき学力や資質・能力は以下のとおりです。

- 1 高度な専門知識と情報活用能力の修得
  - (1) 基礎となる数学、物理などの学力を身に付け、より高度な専門知識を修得する。
  - (2) 収集した情報を整理して正しく分析及び評価できる情報活用能力を身に付ける。
- 2 協働的問題解決とエンジニアリングデザイン能力の修得
  - (1) 専門分野と関連分野に造詣があり、問題解決に対して協働して計画の立案及び実行ができる。

- (2) アイデアや考えたものを具現化できる実践的なエンジニアリングデザイン能力を身に付ける。
- 3 技術者に必要な価値観と倫理観の修得
- (1) 探求心を併せ持った知的好奇心にあふれる技術者として、自主的かつ継続的に自己能力を高める。
- (2) 技術者倫理と人権感覚を身に付ける。
- 4 幅広い教養と豊かな人間性の修得
- (1) 人文科学、社会科学、自然科学に対して興味関心を持って知見を広げ、教養を高める。
- (2) 日常的問題から地球規模問題まで関心を持ち、多角的な視点を養う。
- 5 コミュニケーション能力の修得
- (1) 伝えたい内容を明確に表現する能力や論理的に発表や討論ができるプレゼンテーション能力を修得する。
- (2) 外国語でコミュニケーションがとれる基礎能力を身に付ける。

#### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

【本科】本校は、近畿大学の「建学の精神」と「教育理念」に加えて、ディプロマ・ポリシーに挙げた学力や資質・能力を身に付けるために、学年及び専門コースごとに一般科目、自然科学科目、工学基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成します。

- 1 工学の基礎知識と情報処理技術を修得するための科目編成
- (1) 工学の基礎知識を身に付けるために、数学や物理などを自然科学科目に、また工学概論を工学基礎科目に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。
- (2) コンピュータを活用した実験データの取集や報告書の作成ができるように、工学基礎科目に情報処理科目を設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。
- 2 実践的問題解決とデザイン能力を修得するための科目編成
- (1) 専門コースへの円滑な導入を図るために、機械系、電気電子系、制御情報系、都市環境系、理数系に関する基本的な実験、実習を1・2年次の工学基礎科目に設けます。
- (2) 専門知識を応用して問題を解決できるように、3年次から4つの専門コースに関する専門科目を設け、講義、演習、実験、実習等の複合的な学修方法を行います。
- (3) 専門分野における設計・デザイン能力を身に付けるために、工学基礎科目に図学を配置し、3年次から設計・デザイン科目を各専門コースの専門科目に設け、講義、演習、実習を適切に組み合わせた学修方法を行います。
- (4) 自主的な課題遂行能力を身に付けるとともに専門分野における調査や実験、論文作成、発表会を通して論理的思考力、文章作成能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を養成するために、5年次に卒業研究を設け、演習（ゼミナール）を主とした学修方法を行います。
- 3 技術者に必要な価値観と倫理観を修得するための科目編成
- (1) 自国や他国の文化や価値観の理解を深めるための科目を一般科目に設け、講義を主とした学修方法を行います。
- (2) 健全な人格形成と倫理観を身に付けるための科目を一般科目に設け、講義を主とした学修方法を行います。
- 4 幅広い教養と豊かな人間性を修得するための科目編成
- (1) 幅広い教養を身に付けるために、一般科目と自然科学科目を各学年に体系的に配置し、講義や演習を主とした学修方法を行います。
- (2) 人間性豊かな技術者へと自らを成長させ続ける自己教育力を養う科目を一般科目に設け、講義と実技を適切に組み合わせた学修方法を行います。
- 5 コミュニケーション能力を修得するための科目編成
- (1) 伝えたい内容を適切に表現できる能力を身に付けるために、表現力を養う科目を一般科目及び専門科目に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。
- (2) グローバル社会で活躍できるように、各学年に実践的英語科目を設けるほか、第二外国語科目（中国語・韓国語）を一般科目に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

#### 学修成果の評価方法

- 1 講義及び演習科目は、主として定期考査の結果と科目の特性によりレポート及び課題提出、小テ

ストなどの結果を総合的に勘案した評価方法により、各科目に設定している到達目標に対する達成度を客観的に評価します。

- 2 実験及び実習科目は、課題への取り組み姿勢、レポート及び課題提出を主とした評価方法により、各科目に設定している到達目標に対する達成度を客観的に評価します。
- 3 実技科目は、授業の取り組み姿勢及び技能を主とした評価方法により、各科目に設定している到達目標に対する達成度を客観的に評価します。
- 4 卒業研究においては、研究への取り組み姿勢、卒業論文の提出、研究発表などの評価方法により、到達目標に対する達成度を客観的に評価します。

成績評価は100点法により評価し、60点以上を合格とします。学業成績は次の区分により秀・優・良・可・不可とします。

90点以上	秀	GP (グレード・ポイント)	4
80点以上90点未満	優	GP (グレード・ポイント)	3
70点以上80点未満	良	GP (グレード・ポイント)	2
60点以上70点未満	可	GP (グレード・ポイント)	1
60点未満	不可	GP (グレード・ポイント)	0

なお、再試験に合格し60点以上あると認められる場合は、次の通りに評価します。

合格(素点)	可	GP (グレード・ポイント)	0
--------	---	----------------	---

【専攻科】本校は、近畿大学の「建学の精神」と「教育理念」に加えて、ディプロマ・ポリシーに挙げた学力や資質・能力を身に付けるために、一般科目、関連科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成します。

- 1 高度な専門知識と情報活用能力を修得するための科目編成
  - (1) より高度な専門科目の知識を身に付けるために、数学や物理・化学の応用を含む関連科目を設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。
  - (2) 情報活用能力を身に付けるための高度な情報処理科目を共通専門科目内に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。
- 2 協働的問題解決とエンジニアリングデザイン能力を修得するための科目編成
  - (1) 専攻した専門分野の先端技術に即応できる能力を育成するために、工学専門科目を設け、講義、演習、実験、実習等の複合的な学修方法を行います。
  - (2) 専攻した専門科目の理解をより深め、洞察力を身に付けるために、工学専門科目内に工学実験を設けます。
  - (3) 問題解決にチームで活動するための協調性とエンジニアリングデザイン能力を身に付けるために、工学専門科目内に工学演習を設けます。
  - (4) 実践的な問題に対し自発的に考えるとともに、解決に向けて計画を立案し、継続的に実行する研究開発能力を養成するために、生産システム工学特別研究を設け、演習(ゼミナール)を主とした学修方法を行います。
- 3 技術者に必要な価値観と倫理観を修得するための科目編成
  - (1) 最新の技術に興味を持ち、自主的かつ継続的に自己能力を高める科目を工学専門科目内に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。
  - (2) 技術者倫理と人権感覚を身に付けるために必要な科目を一般科目内に設けます。
- 4 幅広い教養と豊かな人間性を修得するための科目編成
  - (1) 教養を高めるために、人文科学・社会科学・自然科学に関する科目を一般科目及び関連科目内に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。
  - (2) 環境と共存しつつ社会が発展するための多角的な視点を養う科目を共通専門科目内に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。
- 5 コミュニケーション能力を修得するための科目編成
  - (1) 論理的文章の作成や説得力のある話し方を身に付けるために日本語表現の科目を一般科目内に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。
  - (2) 日常からアカデミックまでに対応できる英語4技能(読解、作文、聴解力、会話力)を修得し、国際的に活躍するために、総合的な英語科目を一般科目内に設け、講義や演習を主と

した学修方法を行います。

#### 学修成果の評価方法

- 1 講義及び演習科目は、主として定期考査の結果と科目の特性によりレポート及び課題提出を総合的に勘案した評価方法により、各科目に設定している到達目標に対する達成度を客観的に評価します。
- 2 実験及び実習科目は、課題への取り組み姿勢、レポート及び課題提出を主とした評価方法により、各科目に設定している到達目標に対する達成度を客観的に評価します。
- 3 生産システム工学特別研究においては、研究や探究の過程での日常的な取り組み、学修成果論文の提出、学会等への成果発表などの評価方法により、到達目標に対する達成度を客観的に評価します。

成績評価は100点法により評価し、60点以上を合格とします。学業成績は次の区分により秀・優・良・可・不可とします。

90点以上	秀	G P (グレード・ポイント)	4
80点以上90点未満	優	G P (グレード・ポイント)	3
70点以上80点未満	良	G P (グレード・ポイント)	2
60点以上70点未満	可	G P (グレード・ポイント)	1
60点未満	不可	G P (グレード・ポイント)	0

#### アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

【本科】本校は、人格教育と実社会に役立つ教養と専門的知識の育成に努め、創造力あふれる技術者の養成を目指しています。この目標を達成するために、主体性を持って学べる姿勢のある次のような人の入学を期待します。

- 1 興味や関心のある工学専門分野を学ぶために必要な基礎学力を持っている人。
- 2 ものづくりや実験の実学を通して技術や専門知識を身に付け、社会で活躍したい人。
- 3 技術的な問題点の解決や、考えたことを実現したい人。
- 4 部活動、ボランティア活動、特別活動、学校行事など進んで参加して多様な人々と協力できる人。

#### 入学者選抜方針

入学者の選抜は、多様な学生を選抜するため、

A日程では、特進推薦入学試験、学校長推薦入学試験、専願A入学試験

B日程では、専願B入学試験、併願入学試験、帰国生徒入学試験

C日程では、C日程入学試験

を行います。

A日程では、中学校を卒業見込みで出願要件を満たした生徒を対象とします。

特進推薦入学試験の選抜は、特別進学コースの学習に必要な学力と適性を提出書類（推薦書・調査書）及び学科試験（英語・数学・理科）の結果から評価するとともに面接結果と併せて総合的に評価します。なお、特進推薦入学試験が不合格の場合で出願時に学校長推薦入学試験を第2希望として選択しているときは、学校長推薦入学試験出願と同じ扱いで再選抜します。

学校長推薦入学試験の選抜は、一般コースの学習に必要な学力と適性を提出書類（推薦書・調査書）から評価し、面接結果と併せて総合的に評価します。

専願A入学試験の選抜は、一般コースの学習に必要な学力と適性を提出書類（調査書）及び学科試験（英語・数学・理科）の結果から評価するとともに面接結果と併せて総合的に評価します。

B日程では、中学校を卒業見込みの生徒又は中学校を卒業した生徒を対象とします。

専願B 入学試験及び併願入学試験の選抜は、特別進学コース又は一般コースの学習に必要な学力と適性を提出書類（調査書）と学科試験（英語・数学・理科・国語・社会）の結果から評価します。また、専願B 入学試験においては面接結果も併せて総合的に評価します。なお、特別進学コースが不合格の場合は、一般コース入学試験と同じ扱いで再選抜します。

帰国生徒入学試験の選抜は、出願要件を満たす生徒で、一般コースの学習に必要な学力と適性を提出書類（調査書）及び学科試験（英語・数学）の結果から評価するとともに面接結果と併せて総合的に評価します。

C日程入学試験では、中学校を卒業見込みの生徒又は中学校を卒業した生徒で出願要件を満たしかつ学業あるいは課外活動等で秀でた実績を上げ、自分自身を強くアピールできる生徒を対象とします。選抜は、一般コースの学習に必要な学力と適性を提出書類（調査書）及び作文から評価するとともに面接結果と併せて総合的に評価します。

学科試験は、記述式方式で学力や適性を評価するだけでなく、思考力、判断力、表現力を問う問題も出題します。また、B日程入学試験の国語では、志望理由や入学後の抱負、ものづくりに対する興味等について述べる問題も出題します。

面接試験は、志望動機だけでなく、科学技術やものづくりに対する興味や学習意欲、コミュニケーション能力、協調性、チャレンジ精神、リーダーとしての経験、主体性を持って多様な人々と協働した経験なども評価します。

#### 編入学者選抜方針

本校は、社会に貢献するための広い視野からものづくりを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者の育成を目指しています。

この目標を達成する高い可能性を持った生徒の選抜を行います。多様な学生を選抜するため、指定校推薦編入学試験、学校長推薦編入学試験、一般編入学試験、自己推薦編入学試験を行います。

指定校推薦編入学試験の選抜は、受験資格を満たし、高等学校の在籍学科・コースと受験コースが同一でかつ本校が指定する学校長が責任を持って推薦した学生で、学習意欲や目的、適性について提出書類（志望理由書・調査書）から評価します。また、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、主体性を持って多様な人々と協働した経験、受験コースの学習に必要な基礎的学力についての面接を行い、総合的に評価します。

学校長推薦編入学試験の選抜は、受験資格を満たし、学校長が責任を持って推薦した生徒で、受験コースの学習に必要な基礎的学力と適性、学習意欲や目的について提出書類（志望理由書・調査書）から評価します。また、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、主体性を持って多様な人々と協働した経験、受験コースの学習に必要な基礎的学力と専門知識についての面接を行い、総合的に評価します。

一般編入学試験の選抜は、受験資格を満たし、各コースの学習に必要な共通の基礎的学力について記述式の学科試験（英語・数学）と特定の科目ではない文献や資料に対する考えや、これまでに身に付けたスキルや経験、多様な人々と協働した経験について論述試験の結果及び適性について提出書類（調査書）から評価します。また、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、受験コースの専門知識について面接を行い、総合的に評価します。

自己推薦編入学試験の選抜は、受験資格を満たし、学習意欲や目的、学業あるいは課外活動等で一芸に秀でた実績や成績についての自己アピールと受験コースの学習に必要な学力及び適性を提出書類（自己推薦書・調査書）から評価します。また、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、主体性を持って多様な人々と協働した経験、受験コースの学習に必要な基礎的学力と専門知識について面接を行い、総合的に評価します。

#### 外国人留学生編入学者選抜方針

本校は、社会に貢献するための広い視野からものづくりを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者の育成を目指しています。この目標を達成する高い可能性を持った外国人留学生を選抜するため、外国人留学生編入学試験を行います。選抜は、受験資格を満たした外国人留学生で、各コースの学習に必要な共通の基礎的学力について記述式の学科試験（英語・数学）と適性について提出書類から評価します。また、科学技術や

ものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、主体性を持って多様な人々と協働した経験、受験コースの学習に必要な基礎的学力と専門知識について日本語で面接を行い、入学後の生活や学習に必要な日本語能力とともに総合的に評価します。

【専攻科】本校は、人格教育と実社会に役立つ教養と専門的知識の育成に努め、創造力あふれる技術者の養成を目指しています。この目標を達成するために、主体性を持って学ぶ姿勢のある次のような人の入学を期待します。

- 1 新しい技術や諸問題に関心を持ち、継続的かつ自主的に考える姿勢がある人。
- 2 工学の基礎的学力を有し、ものづくりに意欲をもって取り組める人。
- 3 技術的な問題点の解決や、考えたことを実現し、社会で活躍したい人。
- 4 コミュニケーション能力があり、チームで諸問題に対応できる人。

#### 入学者選抜方針

本校では、社会の技術発展に貢献するための広い視野からものづくりを考え、それぞれの専門分野の高度な知識と幅広い工学的素養をもって、考えたものを実現していく開発型技術者の育成をめざしています。

この目標を達成する高い可能性を持った学生の選抜を行います。多様な学生を選抜するため、推薦入学試験、一般入学試験、自己推薦入学試験を行います。

推薦入学試験の選抜は、出身学校長が責任を持って推薦した学生で、学修意欲や目的、適性について提出書類（志望理由書・調査書）から評価するとともに、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、専攻科の学修に必要な工学の基礎的学力についての面接を行い、総合的に評価します。

一般入学試験の選抜は、専攻科の学修に必要な工学の基礎的学力と適性について記述式の学科試験（英語・数学）の結果及び提出書類（調査書）から評価するとともに、学修意欲や目的、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性について面接を行い、総合的に評価します。

自己推薦入学試験の選抜は、出願要件を満たしかつ自分自身を強くアピールできる学生で、学業あるいは課外活動等で秀でた実績、学修意欲や目的、適正について提出書類（自己推薦書・調査書）から評価するとともに、自己推薦書内容の詳細、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、専攻科の学修に必要な工学の基礎的学力についての面接を行い、総合的に評価します。

アセスメント・ポリシー（学生の学修成果の評価（アセスメント）について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針）

#### 1 評価の目的

ディプロマ・ポリシーに挙げた「卒業までに身に付けるべき資質」を、学生が卒業時（修了時）にどの程度有しているかを評価し、教育の質保証や卒業生の質保証に繋げることを目的とする。

#### 2 達成すべき質的水準

学習・教育目標に挙げる

- （1）工学の基礎となる学力や技術
- （2）実践的なデザイン能力
- （3）技術者としての健全な価値観や倫理観
- （4）幅広い教養に基づく豊かな人間性
- （5）コミュニケーション能力

について評価基準を作成し、卒業時（修了時）に到達度を確認する。

#### 3 評価の具体的実施方法

教学マネジメント体制のもと、教務部が中心となって具体的な評価を実施する。

#### 学生個人の評価

- (1) 卒業研究（特別研究）への取組み状況、卒業論文（学修総まとめ科目成績評価、成果の要旨）、研究発表の評価
- (2) 単位取得状況とGPAによる評価
- (3) 資格・免許の取得状況
- (4) 学内外における諸活動の成果等
- (5) 学修評価アンケート

を踏まえ、総合的に評価を行う。

#### 教育プロセスの評価

学生の進路（就職・進学）実績、卒業（修了）・進級判定、GPAの実態把握、資格取得実績、及び卒業時（修了時）のアンケート、卒業後（修了後）のアンケート、進路先アンケート、授業アンケートなど各種アンケートを踏まえ、学校全体・専攻科・専門コース・共通教育科・各科目レベルでの学修成果達成状況を評価する。

## 別記(2)

### 近畿大学工業高等専門学校の教育・研究の目的について

#### 近畿大学学園の「建学の精神」と「教育の目的」

近畿大学学園の建学の精神は、「実学教育と人格の陶冶」です。この建学の精神を具体的に実践するために「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念に掲げています。

この建学精神と教育理念に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標に沿って、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しています。

学生の皆さんには、上記の建学精神と教育理念を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢中になれる学問に出会い、美しいものに打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最もふさわしい将来設計をされることを願っています。

#### 工業高等専門学校の教育目的

「人に愛され、信頼され、尊敬される、新時代を担う技術者を育成することにある」

#### 育成する技術者像

##### ○準学士課程

社会に貢献するための広い視野からもの創りを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者

##### ○専攻科課程

社会の技術発展に貢献するための広い視野からもの創りを考え、それぞれの専門分野の高度な知識と幅広い工学的素養をもって、考えたものを実現していく開発型技術者

#### 学習・教育目標

- (A) 工学の基礎となる学力や技術を身につける。
- (B) 実践的なデザイン能力を身につける。
- (C) 技術者としての健全な価値観や倫理観を養う。
- (D) 幅広い教養に基づく豊かな人間性の養成
- (E) コミュニケーション能力の養成

#### 卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

##### ○準学士課程

##### 総合システム工学科

- (A-G 1) 数学、物理などの工学基礎科目における基礎学力を身につけること。
- (A-G 2) 実験データの集計や報告書作成にコンピュータが活用できること。
- (B-G 1) 専門分野の基礎知識を修得するとともに、関連する他の分野の基礎知識を修得すること。
- (B-G 2) 実践的な問題に対し、修得した専門分野の知識を問題解決に応用できること。
- (B-G 3) 構想したものを具体的な形に表現するCADソフトウェアが活用できること。
- (C-G 1) 自国および世界の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した視点からものごとを考えることができること。
- (C-G 2) 社会人としての健全な人格を有し、技術者に要求される倫理観を身につけること。
- (D-G 1) 人文科学、社会科学、自然科学の分野の基礎学力を身につけること。
- (D-G 2) 課外活動、特別活動、学校行事などへ参加することで豊かな人間性を身につけること。
- (E-G 1) 得られた結果を日本語でまとめ、プレゼンテーションができること。
- (E-G 2) 英語の基礎知識を修得し、英語の読解、記述、簡単な会話ができる能力を身につけること。

ること。

○専攻科課程

生産システム工学専攻

- (A-1) 数学、物理など工学の基礎となる学力を身につけること。
- (A-2) 情報リテラシーを習得し、情報を収集、分析し活用できること。
- (B-1) 専門分野の基礎知識をベースに、より深い専門知識を修得するとともに、関連する他の専門分野の基礎知識を修得すること。
- (B-2) 実践的な問題に対し、習得した知識を活用して、解決に向けて計画を立案し、継続的にそれらを実行できること。
- (B-3) コンピュータを活用して自らの創造性を具現化するデザイン能力を身につけること。
- (B-4) 諸問題に対して、専門分野の枠を超えてチームで解決策を計画・実行し、問題を解決できること。
- (C-1) 最新の技術や物事に対する探求心を持ち、自主的、継続的に学習できる能力を身につけること。
- (C-2) 自然と生命の尊厳を正しく理解し、併せて互いの人権を重んじ、共生の理念を育むこと。
- (C-3) 知的財産権などの基礎知識を理解し、社会的ニーズへ即応できること。
- (D-1) 人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い教養を身につけること。
- (D-2) 身近な問題から地球規模の問題まで関心を持ち、物事を考えられること。
- (E-1) 日本語で論理的に記述、発表、討議できること。
- (E-2) 外国語によってコミュニケーションがとれる基礎能力を身につけること。